

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース(レコーディング専攻)
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ(前期)	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ(後期)	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	P C 知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
実習	D A W & T h e o r y Ⅱ	68	2	2
実習	P r o T o o l s 基礎Ⅱ	68	2	2
実習	P r o T o o l s 応用Ⅱ	68	2	2
演習	レコーディング基礎Ⅱ	68	2	4
演習	レコーディング応用Ⅱ	68	2	4
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。					
到達目標					
・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。					

対策	
【前期】 1～3回目	自己紹介:対策と解説
【前期】 4～7回目	マナー基本編の復習と応用編(ステップupマナー)
【前期】 8～10回目	マナーの実技編とアドバイス
【前期】 11～13回目	コミュニケーションの復習(話し方・聞き方・表情・態度)・実技編
【前期】 14～17回目	前期試験:マナー・コミュニケーションのレポート提出と実技の実施
【後期】 18～20回目	就活の為のマナー編(面接時における対応・入室・座・退室)
【後期】 21～24回目	質問に対する返答への対策
【後期】 25～27回目	社会人としての仕事への取り組み方
【後期】 28～30回目	仕事をして行く中で マナー・ルールが相手の立場を考え仕事を円滑に運んだり、トラブルを未然に防いだりする事の必要性
【後期】 31～34回目	後期試験:自己アピール(プレゼン)と好感の持てる社会人とは レポート提出
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることとはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
音響・録音についての技術や機器、背景などの歴史を学習する。						
到達目標						
・録音史について基礎的な知識を得る。						
・技術の変遷を理解し、現代でも使われている技術や機器について理解を深める。						
・音とはなんなのかに注目し、歴史のなかでそれがどの様に捉えられてきたかを学ぶ。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログとデジタルについて 蓄音機誕生について
【前期】 4～7回目	円盤式蓄音機について 電気録音とラジオについて
【前期】 8～10回目	LPとEP、ステレオについて アナログ・オーディオ全盛期について
【前期】 11～13回目	磁気録音の歴史 前期のおさらい、応用的な内容の学習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	前期のおさらい デジタル録音、CDについて
【後期】 21～24回目	MDの誕生 DATの開発について
【後期】 25～27回目	DVDの誕生 ステレオからサラウンドへ
【後期】 28～30回目	SA-CD、DSDについて デジタルオーディオがもたらしたもの
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	レコーディング、ミキシングの職において重要な歴史の知識を身につけましょう。テキストに添いつつ解説を挟みながら行います。
備考	教材として「音響技術史～音の記録の歴史～」(森 芳久 他著)を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。						
授業概要							
スタジオでの実技を通してレコーディング/ミキシングにおいて重要な楽器、音響装置の知識の学習、実践							
到達目標							
・レコーディング/ミキシングにおいて重要な楽器、音響装置等の知識を身につける。 ・さまざまな楽器や状態に対する対処の考察、その具体的なテクニックを習得する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディング作業から見た各楽器の特性についての学習 具体的なアイデアの考察・実践
【前期】 4～7回目	レコーディング作業から見た各楽器の特性についての学習 具体的なアイデアの考察・実践
【前期】 8～10回目	ミキシング作業から見た各楽器の特性についての学習 具体的なアイデアの考察・実践
【前期】 11～13回目	ミキシング作業から見た各楽器の特性についての学習 具体的なアイデアの考察・実践
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	より多くの楽器についての考察 応用的な状態・環境でのレコーディングについての学習
【後期】 21～24回目	より多くの楽器についての考察 応用的な状態・環境でのレコーディングについての学習
【後期】 25～27回目	より多くの楽器についての考察 応用的な状態・環境でのレコーディングについての学習
【後期】 28～30回目	より多くの楽器についての考察 応用的な状態・環境でのレコーディングについての学習
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スタジオでの実習を通して、さまざまな楽器の知識を身につけ、それを技術的に生かす術を学習していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
ProTools技術認定試験の内容をもとに、AVID社の提供する資格を獲得できるレベルの知識と技術を獲得する。 また、毎授業ごとに課題を課し、知識と技術の定着を図る。						
到達目標						
・ProToolsを実際の現場で求められる水準で素早く正確に操作できるようになる。 ・ProToolsのシステムを体系的に理解し、未知のトラブルに遭遇した際にも冷静に対処できる程度の知識、技術及び応用力を獲得する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro Tools 概要 基礎・応用で学んだ内容を振り返り、知識の欠落があるものを補完する。
【前期】 4～7回目	レコーディングの準備・設定 様々な場面を想定し、すべて自身一人で考え、設定できるように繰り返しトレーニングを行う。
【前期】 8～10回目	レコーディング 想定しうるトラブルとそのシューティングについて学ぶ。
【前期】 11～13回目	オーディオの編集 専門用語の復習を行う。また、実際の活用例を示しながら各ツールでできることを理解する。
【前期】 14～17回目	前期試験：実技試験及び筆記による知識・技術の習得レベルの確認
【後期】 18～20回目	ミックスで使うツールについて① より高度なツール・プラグインについて解説する。
【後期】 21～24回目	ミックスで使うツールについて② より高度なツール・プラグインについて解説する。
【後期】 25～27回目	Pro Tools システム ハード面の知識を獲得し、ProToolsを体系的に理解していく。
【後期】 28～30回目	シンク、MIDI 多重録音について、また、複数のMTR、VTRなどを連動させるためのシステムについて学ぶ。 MIDIデータの取り扱いについてより高度な知識を学ぶ。
【後期】 31～34回目	後期試験：実技試験及び筆記による知識・技術の習得レベルの確認
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro Toolsをより専門的に理解し実践できるようにします。 高度な内容になるので、不明点は授業中に解消して課題に取り組めるようにしましょう。
備考	発展的な授業のため、都度出される課題に取り組んでいることを前提に授業を進行します。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。					
授業概要						
日本音楽スタジオ協会が行う「サウンドレコーディング技術認定試験」の内容を題材にし、レコーディングエンジニアに必要な知識を学習する。						
到達目標						
・「サウンドレコーディング技術認定試験」で出題される問題レベルの知識を身に着ける。						
・試験学習の中でレコーディング/ミキシング職の業務の流れを理解し、現場で役立つ発想力を鍛える。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 音響の基礎
【前期】 4～7回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 音響物理の基礎
【前期】 8～10回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 電気音響の基礎
【前期】 11～13回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 音響機器①、試験前予習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 音響機器②
【後期】 21～24回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 録音技術
【後期】 25～27回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 次世代音響技術、音楽理論と楽器について
【後期】 28～30回目	サウンドレコーディング技術認定試験に向けての学習 音楽著作権、音楽制作スタッフの役割
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	実際の試験問題を通して、レコーディング/ミキシング業務に必要な知識を身につけましょう。
備考	教材として「サウンドレコーディング技術概論」「2025年度版サウンドレコーディング技術認定試験問題集 技術資料集」を使用。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習 選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。				
授業概要					
楽曲やSEなどのサウンドをさまざまな視点から解析し、音の役割を理解することで、レコーディング/ミキシングに必要な感性を磨いていく。					
到達目標					
・実際のレコーディングやミキシングを通して音に対する理解度をさらに高める。					
・楽曲中になっている音がどういう音か、どんな役割があるか理解できるようになる。					
・基礎的な音楽理論的視点、芸術的視点を得て、それを実際のレコーディング/ミキシング作業に落とし込めるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	リスニングについての学習 楽曲のさまざまな視点からの考察
【前期】 4～7回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 クオリティ向上のためのテクニックについての学習
【前期】 8～10回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 クオリティ向上のためのテクニックについての学習
【前期】 11～13回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 クオリティ向上のためのテクニックについての学習・実践
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 プレイヤビリティ向上のためのテクニックについての学習・実践
【後期】 21～24回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 それぞれの役職から聴いた楽曲の印象・役割の違いについての考察
【後期】 25～27回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 プレイヤビリティ向上のためのテクニックについての学習・実践
【後期】 28～30回目	実際のレコーディング/ミックス作業からみた楽曲の考察 1年間のまとめ
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	レコーディングスタジオでさまざまな楽曲を聴いたり録音したりすることで、音楽についての視点を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW&Theory II		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW&Theory II	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。 アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
サウンドデザイナーとして必要な様々な楽曲の知識を身に着け、実際に自身で楽曲の制作ができるようにDAWソフトの応用操作を学びます。					
到達目標					
・DAWソフト(Logic)を使用し、楽曲制作並びに編集作業の応用技術を身に着ける。 ・特定のシーンやプロダクトに合わせたサウンドデザインができるようになる。 ・イメージを具現化できるスキルを身に着ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Logicについて基礎知識の復習。
【前期】 4～7回目	楽曲のジャンルについて。 ジャンルに合わせた楽器の選択。
【前期】 8～10回目	楽曲制作:自由課題①
【前期】 11～13回目	楽曲制作:自由課題②
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施
【後期】 18～20回目	楽曲制作:自由課題③
【後期】 21～24回目	課題映像に合わせた作曲① 簡単なミックス、バウンス。
【後期】 25～27回目	課題映像に合わせた作曲②
【後期】 28～30回目	課題映像に合わせた作曲③
【後期】 31～34回目	■前期試験:実技試験を実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	この授業を履修するのは作曲・アレンジを専攻するコースではないため、難しい授業だと感じることもあるかもしれませんが、サウンドデザインを行う中で自身のクリエイティビリティを発揮するためにも、楽曲制作の工程を学ぶことは有用です。 限られた時間で作品を形にする力をつけていきましょう。
備考	特に無し。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディーズ問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからパラス、スタジオ実習に関する実習を行う。				
授業概要					
一年次で習得したPro toolsの基礎的な知識・操作への理解をより深め、プロクオリティの作品が仕上がるまでの一連の流れを実践する。					
到達目標					
・Pro Toolsの機能についての理解をさらに深める。 ・実際の作業を通して、Pro Toolsをプロレベルで正確にスムーズに操作できるようになる。 ・エディット、ミキシングにおける基礎的な技術を身につけ、実践できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro ToolsおよびMacの基本操作の学習
【前期】 4～7回目	レコーディング後のPro Toolsセッションデータの整理、管理の学習 エディット、ミキシング作業の学習
【前期】 8～10回目	実際の素材を使ったPro Toolsセッションデータの整理、管理 エディット、ミキシング作業の実践
【前期】 11～13回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験の実施
【後期】 18～20回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットテクニック、プラグインについての学習
【後期】 21～24回目	エディット、ミキシング作業の実践 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 25～27回目	エディット、ミキシング作業の実践 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 28～30回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro ToolsならびにMacについての基礎的な学習を行います。実際のワークフローを想定しつつ、わからないことがあれば解消していきましょう。何かあれば、すぐに質問してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動が続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディーズ問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからパシ、スタジオ実習に関する実習を行う。				
授業概要					
「Pro tools基礎Ⅱ」の内容からさらに多くの知識・操作を身につける。 応用的な知識、テクニックについて理解し、身につける。					
到達目標					
・Pro Toolsを使った作業についてより効率的なアイデアを得る。 ・Pro Tools と連携させたピッチ修正やノイズ除去アプリケーションの操作技術を習得する。 ・エディット、ミキシングにおける応用的なテクニックを身につけ、実践できるようになる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Pro ToolsおよびMacの基本操作の学習
【前期】 4～7回目	レコーディング後のPro Toolsセッションデータの整理、管理の学習 エディット、ミキシング作業の学習
【前期】 8～10回目	実際の素材を使ったPro Toolsセッションデータの整理、管理 エディット、ミキシング作業の実践
【前期】 11～13回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験の実施
【後期】 18～20回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットテクニック、プラグインについての学習
【後期】 21～24回目	エディット、ミキシング作業の実践 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 25～27回目	エディット、ミキシング作業の実践 ミキシングテクニック、プラグインについての学習
【後期】 28～30回目	エディット、ミキシング作業の実践 エディットからミックスダウンまでの実践
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Pro ToolsならびにMacについての応用的な学習を行います。実際のワークフローを想定しつつ、わからないことがあれば解消していきましょう。何かあれば、すぐに質問してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択		
	学則別表上表記	レコーディング基礎Ⅱ	年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。						
授業概要							
①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。 ②実際にレコーディングをオペレートする事でレコーディングエンジニア、アシスタントエンジニアとしての経験を積んでいく。							
到達目標							
・レコーディングの全体像を理解し、常に先読みした行動がとれる。 ・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。 ・コンソールなどの音響機器の操作において、実務でも素早く対応できるような技術・知識の習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディング実習(ボーカルレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 4～7回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 8～10回目	レコーディング実習(さまざまな楽器のレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 11～13回目	レコーディング実習(さまざまな楽器のレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を実施し、ProToolsや各機器の正確性及び機材操作を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 21～24回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 25～27回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 28～30回目	卒業制作
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を実施し、レコーディングに関する全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 理解 / 正確性 / 機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得する。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	レコーディング応用Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。					
授業概要						
①レコーディングスタジオを使用して、マイキングや回線チェックなどの機材セッティングの手順及び方法を学ぶとともに、Pro Toolsの発展的なオペレート技術を習得する。 ②実際にレコーディングをオペレートする事でレコーディングエンジニア、アシスタントエンジニアとしての経験を積んでいく。 ※スタジオ実習基礎Ⅱで学んだ内容を基に2コマ目として実施						
到達目標						
・レコーディングの全体像を理解し、常に先読みした行動がとれる。 ・Pro Tools における編集、ミキシング技術の習得。 ・コンソールなどの音響機器の操作において、実務でも素早く対応できるような技術・知識の習得。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディング実習(ボーカルレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 4～7回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 8～10回目	レコーディング実習(さまざまな楽器のレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 11～13回目	レコーディング実習(さまざまな楽器のレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラしまで一連の流れを実践する。
【前期】 14～17回目	■前期試験: 実技試験を実施し、ProToolsや各機器の正確性及び機材操作を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 21～24回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 25～27回目	レコーディング実習(バンドレコーディング) 実際にアーティストを招き、仕込み、オペレート、バラし、編集、ミックスダウンまで一連の流れを実践する。
【後期】 28～30回目	卒業制作
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験を実施し、レコーディングに関する全般を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識/意欲/理解/正確性/機材操作」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、実際のスタジオワークを想定した実習を中心とした授業で、実際のレコーディングの現場の流れなどを学び、Pro Tools及びPro Toolsと連携して使用されるソフトウェアの概要を学び、実践する力とトラブル時の対処方法を習得する。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修		
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☐	非該当 ☒
担当講師 実務経歴							
授業概要							
著作物の定義や著作権者の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。							
到達目標							
音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権者の権利の内容を理解する 著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リクーブライニングについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。